

津市埋蔵文化財センター情報

まいぶん津

2009. 3. 31
第6号



山ノ下B20号墳横穴式石室遺物出土状況

最近の調査から

多気北畠氏遺跡第31次調査(美杉町上多気)

多気北畠氏遺跡は、雲出川の支流八手俣川上流の盆地全域に広がる北畠氏館跡を中心とした遺跡群の総称です。北畠氏は南北朝時代に伊勢の平野部に入り、美杉町多気に移った後は、織田勢の伊勢侵攻によって滅亡するまでこの地を本拠としました。

これまで、平成8年度から平成17年度まで北畠氏館跡を中心に学術調査を行い、平成18年度からは、八手俣川を挟んだ北畠氏館跡の対岸に位置する上多気六田地区で調査をしています。

今回の調査区は、昨年度調査区の北側に接し、六田館跡の南に接しています。調査地は、現在水田として利用されており、床土を取り除くとすぐに区画の石列や、掘立柱建物が複数見つかり、大規模な造成が行われていたことが確認できました。これらは、北畠氏館跡を基準にして造られた地割に基づいたものです。また、中国産の青磁・白磁や16世紀中頃の土師器、瀬戸美濃・常滑・信楽産の陶器や、金属製品などが出土し、現在でも北畠氏館跡を中心とした城下の暮らしの痕跡が良好に残っていることがわかりました。



調査区位置図(国土地理院『伊勢奥津』1:50,000)

特に今回の調査では、出土例の大変少ない栗形(横3.6cm、高さ1.2cm、重さ40g)が出土しました。これは刀の鞘に付く部品で、下緒を通す刀装具です。鞘に接する部分が大きく、刀自体も大きなものようです。素材は銅で、表面には一部に金メッキが残っています。

他にも刀装具の目貫の鋳型や取瓶(溶けた金属を鋳型に流し込む器)の破片など、鋳造に関わる遺物や大量の焼土も確認されました。これらは調査地周辺がどのような場所であったかを知るための重要な手がかりです。

今はまだ炉跡のような鋳造に関わる遺構は見つかりませんが、この付近で刀装具などの鋳造が行われた可能性は高く、少しずつ城下の様子が見えてきました。(石淵誠人)



調査区全景(北から)



出土した栗形(正面と側面)



刀装具各部の名称

山ノ下古墳群B支群（安濃町戸島）

山ノ下古墳群B支群は、安濃川^{あのう}中流右岸の標高約50mの丘陵に築造された古墳群です。

この古墳群では、昭和57年と平成13年に発掘調査が実施され、6世紀～7世紀の古墳や古墳の周溝が17基検出されています。

今回は、資材置場敷地造成に伴い平成20年10月から平成21年2月に発掘調査を実施した結果、B20号墳のほかに、新たに2基の古墳が検出されました。

B20号墳 墳丘の大半が削平されていましたが、検出された周溝から墳丘は直径約14mの円墳と推察されます。また、墳丘の中央から検出された片袖式の横穴式石室は、ほぼ完存で全長6.6m、花崗岩を中心とした川原石が積み上げられ、玄室が羨道よりも約60cm低くなっているところに特徴があります。長さ3.1m、幅1.1m、高さ1.7mの玄室からは、6世紀中葉^{すえき はしき}の須恵器、土師器^{つばとうす}のほか、鉄鏃^{てつぞく}、琥珀やガラス製の玉類等が出土しました。

B21号墳 墳丘は削平されていましたが、無袖式の横穴式石室が検出されました。残存する石室はやや胴張りで長さ4.5m、幅0.9m、高さ0.95m、石室からは7世紀中葉の須恵器、鉄釘等が出土しました。

B22号墳 横穴式石室の大半が後世の開墾等により削平されており、片袖式の石室は長さ3.2m、幅1.0m、高さ0.5mしか残存していませんでしたが、7世紀中葉の須恵器が出土しました。
(藤田充子)



遺跡位置図(国土地理院『棕本』1:25,000より)



B20号墳（南から）



B21号墳横穴式石室遺物出土状況（南から）



B22号墳横穴式石室遺物出土状況（南東から）

市指定史跡 ガガフタ古墳群 (白山町南家城)

ガガフタ古墳群は、雲出川右岸の標高約110mの丘陵頂部に位置し、2基の円墳から構成されています。ガガフタ古墳群の約100m北西の丘陵裾にはコメンド塚古墳がありますが、墳丘・石室とも破壊され、天井石の一部が露呈している状況です。

ガガフタ古墳群のうち1号墳は昭和33年に家城高校（現白山高校）郷土史クラブによって発掘調査が行われ、2号墳については昭和36年に白山町教育委員会が主体となり、三重大学歴史研究会の協力を得て発掘調査が行われました。

1号墳は、現況で直径18m、墳丘の高さ2mの円墳で、埋葬施設は南に開口する右片袖式の横穴式石室です。石室が露出していることから、本来の墳丘の規模はもう少し大きかったものと考えられます。天井石は玄室で3枚、羨道で1枚の計4枚が残り、羨道に対して玄室の天井が高く、両者の境は段状になっています。石室の規模は、玄室中央部で幅1.75m、長さ2.25m、高さ3.95mで、羨道を含めた石室の全長は6.25mです。玄室の平面プランは長方形でなく、奥壁に向かってやや幅広となっています。出土遺物は、須恵器・土師器・鉄鏃・鉄剣・鉄釘・管玉・勾玉・耳環などがあり、棺については組合せ木棺が想定されています。



ガガフタ1号墳石室

2号墳は長径16m、墳丘の高さ3mの円墳で、埋葬施設は南西に開口する右片袖式の横穴式石室です。天井石は玄室で5枚、羨道で1枚の計6枚が残り、羨道に対して玄室の天井が高く、両者の境は段状になっています。石室の規模は、玄室中央部で幅2.1m、長さ4.3m、高さ2.1mで、羨道を含めた石室の全長は9.1mです。玄室の平面プランは1号墳と同様、奥壁に向かってやや幅広となっています。このほか、現状では確認できませんが、調査当時の記録から羨道に閉塞石が積まれていたと考えられます。出土遺物は、須恵器・土師器・鉄剣・鞘金具・刀子・鉄族・鉄斧・鉈・耳環などです。

1・2号墳とも出土須恵器からみると、6世紀後半に属しますが、1号墳の方がやや古いと考えられます。（村木一弥）



遺跡位置図(国土地理院『二本木』1:25000より)

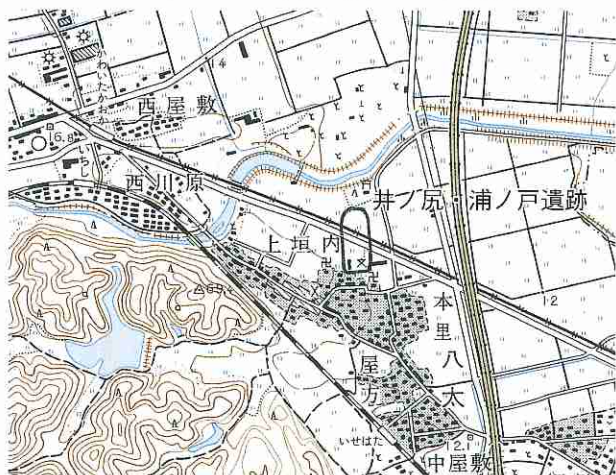


ガガフタ2号墳石室

資料紹介 井ノ尻・浦ノ戸遺跡出土の青磁（一志町八太）

井ノ尻・浦ノ戸遺跡は雲出川の支流である波瀬川右岸の標高15m前後の河岸段丘上に位置する遺跡です。平成13～14年度に川合小学校校舎建設に伴って一志町教育委員会（当時）が発掘調査を行い、中世の遺構・遺物が発見されました。今回は、中世墓に副葬された青磁の碗・小皿を紹介します。

1～3は碗で、1は口径16.4cm、高さ7.2cmで、内面に櫛描の文様、外面に縦の櫛描文が描かれています。3は口径15.6cm、高さ7.2cmで、内面に流水の文様が描かれています。2は口径12.4cm、高さ6.0cmで、1や3より一回り小さく、文様がありません。また、2・3は輪花碗と呼ばれるもので、口縁部にヘラで窪みをつけて、5弁の花びらを表現してい



遺跡位置図 (国土地理院『大仰』 1:25,000より)



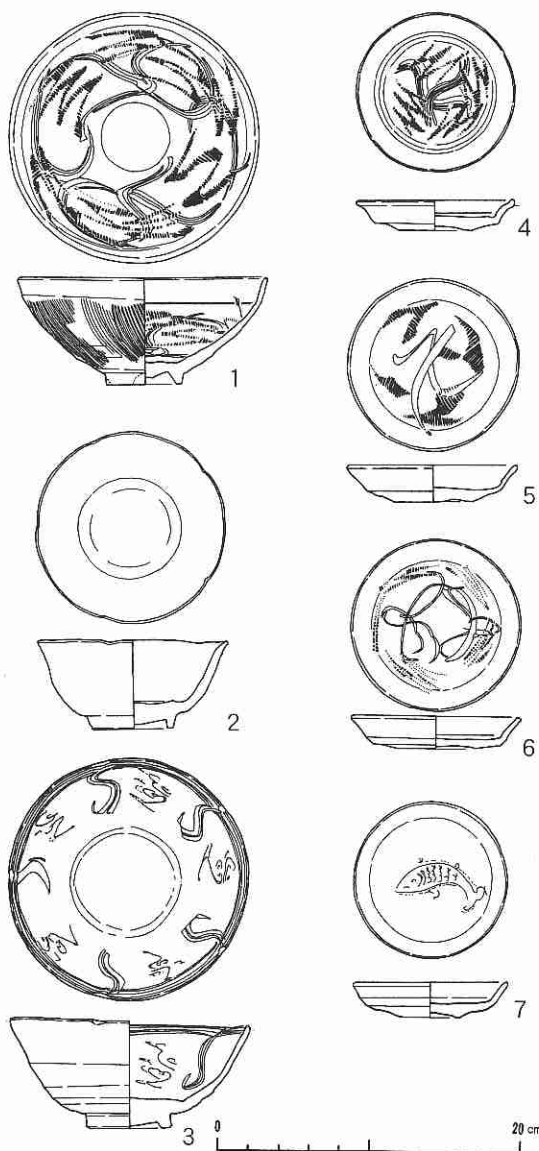
井ノ尻・浦ノ戸遺跡出土青磁碗・小皿

ます。

4～7は口径10～11cm、高さ2.0～2.4cmの小皿です。4～6の見込みには、線刻と櫛描の文様が描かれています。7は空色に近い美しい色合いで、見込みには今にも飛び出してくるような魚文が生き生きと描かれています。

これらの青磁は、その文様や色調から12世紀末から13世紀初頭に中国の龍泉窯や同安窯で作られ、この地域にもたらされたものです。

(田中秀和)



青磁碗・小皿実測図 (1:5)

埋文センターこの1年

平成20年度日誌抄

- 4月25日《見学》神戸小学校 76名
 4月28日《見学》桃園小学校 41名(久居分室)
 4月30日《見学》戸木小学校 28名(久居分室)
 4月30日《閲覧》大城遺跡出土遺物他
 (鈴鹿市考古博物館)
 5月9日《見学》美杉東小学校 13名
 (多気北畠氏遺跡調査分室)
 5月14日《見学》嬉野絵画講座 12名(久居分室)
 5月30日《貸出》藤谷埴輪窯出土埴輪他(6月30日まで)
 鈴鹿国際大学博物館学講座
 6月5日《普及》東通企画歴史街道取材
 (平田古墳群出土遺物他)
 6月10日《見学》樹木ウォッチング 18名
 6月12日《見学》橋南公民館 23名
 6月27日《閲覧》高茶屋銅鐸(1号鐸)レプリカ
 (鈴鹿市考古博物館)
 7月9日《貸出》多気北畠氏遺跡出土遺物
 (8月29日まで)(斎宮歴史博物館)
 7月15日《貸出》大城遺跡他出土遺物
 (9月19日まで)(鈴鹿市考古博物館)
 7月18日《見学》草生公民館メダカ教室22名(久居分室)
 8月10日《普及》第1回津城跡現地説明会 225名
 8月18日《見学》津市教育研究会社会科サークル 16名
 8月19・20日《普及》インターシップ研修 3名
 8月25日《見学》学校法人大川学園 20名
 9月2日《見学》久居観光ボランティア養成講座
 13名(久居分室)
 9月5日《調査》津城跡発掘調査(2月12日まで)
 9月10日《普及》東観中学校職場体験
 2名(9月12日まで)
 9月26日《貸出》高茶屋銅鐸(1号鐸)レプリカ(12月9日まで)
 (鈴鹿市考古博物館)
 10月2日《見学》明合公民館 12名(久居分室)
 10月7日《見学》四日市市生涯学習課歩こう会
 24名(久居分室)
 10月9日《調査》多気北畠氏遺跡第3次発掘調査
 (1月23日まで)
 10月20日《調査》山ノ下古墳群B支群発掘調査
 (2月22日まで)
 11月5日《見学》跡部自治会 22名
 11月12日《普及》西郊中学校職場体験
 2名(11月14日まで)
 11月18日《見学》山ノ下古墳群B支群見学
 村主公民館 12名
 11月18日《普及》出張講座 朝陽中学校 20名
 11月29日《普及》第2回津城跡現地説明会 130名
 12月3日《見学》美杉南小学校 15名
 (多気北畠氏遺跡調査分室)
 12月11日《見学》西郊中学校 2名
 1月10日《普及》多気北畠氏遺跡第31次調査現地説明会 60名
 1月19日《見学》三重中部歩こう会 30名
 (久居分室)
 2月15日《普及》考古学講座 23名
 2月22日《普及》考古学講座 21名
 3月1日《普及》考古学講座 23名
 3月1日《見学》立成地区体育振興会
 57名(久居分室)
 3月22日《普及》山ノ下古墳群B支群発掘調査
 成果報告会 40名
 3月29日《見学》三重郷土会 50名(久居分室)

編集後記

サクラのたよりが届きはじめて今日この頃、1年の早さを実感しています。今年度は、3件の発掘調査がありました。多気北畠氏遺跡での栗形の出土や山ノ下古墳群B支群ではほぼ完存の横穴式石室が見つかる等、数多くの貴重な成果があり、紙面も充実しました。(編集子)

発行日：平成21年3月31日

編集発行：津市埋蔵文化財センター

〒514-0058

三重県津市安東町1225

TEL 059-229-0210

FAX 059-229-4601

印刷：森田印刷株式会社